

## (2) 蕨岡中学校

学校長 大塚 明人

校内研究代表者 林 美枝

### 1. 研究主題

「自ら考え、判断し、表現する力の育成  
～主体的な学び方へのアプローチをとおして～」

### 2. 主題設定の理由

今年度の本校生徒は、全員で4名である。4名とも真面目で規律を守りつつ落ち着いた学校生活を送っている。また、平成30年度高知県学力定着状況調査においては、全教科+20P前後の結果であり、各教科においておおむね学力が付いている現状がある。しかしながら、コミュニケーションや表現力という部分では課題を感じざるを得ない。また、初めてのことへのチャレンジにおいても、どちらかというとな消極的である。

学校教育目標「自立・貢献できる生徒の育成」は、このような生徒の状況から、生徒自身が自分で考えて判断し、思いや意見を発信していく力をもとにして、自分でしっかり立ち上がり、これからの社会を生き抜いていく力を付けていくことを願ってのものである。そのうえで今年度の本校の研究実践においては、この「自ら考え、判断し、表現する」ということを中心に取り組んでいくこととした。

取組の主体としては、昨年度までは研究部会を置き、全教員がいずれかに所属し研究を進めてきたが、今年度は教員数の減少のため研究部会等を設置せずに行うこととした。

### 3. 研究の進め方と方法

#### (1) 授業改善と学力向上

- |   |
|---|
| ①ベーシックガイドブックに基づいての分かる授業づくり<br>[UDの授業づくり/生徒指導の三機能を生かした授業づくり] |
| ②思考過程の分かるノート指導と予習・復習の工夫                                     |



#### ■教科間連携を中心としての研修

本校は極小規模校のため他校と兼務している教員が2名、他校からの兼務として来ている教員が2名いる。また、全員が2教科を担当していることなどから、週時間割の中にチーム会として教科間連携の研修時間を位置づけることは難しい。また「チーム会=全員での研修」という状況なので、毎週水曜日の校内研を教科間連携の場として位置づけた研修とする。職員会等の日もその後半を教科間連携の内容を位置づけて継続した取組とする。
---

#### (2) 夢・志にかかわっての学習意欲の向上

- |                              |
|------------------------------|
| ○キャリア教育の充実に関する取組             |
| ・キャリアノートと要となる特別活動の充実         |
| ・キャリア教育実践の中心としての総合的な学習の時間の充実 |

(3) 確認事項

- 毎週水曜日を校内研修日として設定して、月1回は職員会と兼ねる。
- 研究授業については、学習指導案を用いてのものを1. 2学期中に全員が行い指導主事を講師として招聘する。また、学習指導案を用意しない公開授業は、1人1～2回の実施とする。
- 各学期末には総括校内研を実施して、成果と課題を整理して課題解決に向けての具体的方策を検討・実施する。

4. 研究内容

(1) 授業改善と学力向上

【具体的内容】

○基本とする流れ

事前研修

- ①ベーシックガイドブックに基づいての分かる授業づくり  
[UDの授業づくり/生徒指導の三機能を生かした授業づくり]
- ②思考過程の分かるノート指導と予習・復習の工夫に関する研修（講話など）
- ② 生徒の実態把握に関する研修
- ③ 生徒の学力分析に関する研修
- ④ 研究主題に基づいた各教科の取組の共有
- ⑤ 研究授業・公開授業に向けての情報提供や研修内容の共有 など

研究授業

- ① 授業参観と授業後の研究協議 [講師招聘] など

公開授業

と 事後研修

総括と振り返り

- ① 研究主任による研究協議のまとめを元にしたの振り返り研修 → 次の事前研修へのつながり など

(2) 夢・志にかかわっての学習意欲の向上

<キャリア教育の充実に関する取組>

①キャリアノートの継続 … 日々の自分自身の取り組みや体験を肯定的に振り返らせる。

②総合的な学習の時間の充実

○「閉校記念誌」に掲載する卒業生へのインタビューを中心とした取り組み

【ねらい】・地域の人や卒業生の生き方・思いに触れ、自分自身の生き方を考える。

・最後の在校生として本校の締めくくりに関わることを通して自己有用感を高める。

・コミュニケーション力の向上と社会体験をふやすこと

○職場体験学習 … キーワードは「好きなことを仕事にしたい」

③キャリア教育の視点での授業づくり

2回講師を招聘し学び合った。6月にキャリアの視点を位置づけた授業づくりの大切さを研修した後、10月に授業研（2年数学「平面図形の性質」）を行い、全教員で確かめ合った。

## 5. 今年度の成果と課題

### (1) 成果

- ・ 指導主事を講師として招聘した研究授業を全教員が行うことができ、新学習指導要領の周知・徹底と授業改善につながった。授業参観の視点にベーシックガイドブックに基づいての「UDの授業づくり／生徒指導の三機能を生かした授業づくり」を用い、研究協議ではワークショップを通して、本校の課題について共通理解ができた。また、次の校内研修で研究授業について振り返りを行い、全教科共通の課題について改善策を確認できた。
- ・ 毎週1回は校内研を持ち、教科間連携の場として位置付けた研修ができた。特に「言語活動の充実」について各教科の取り組みについて話し合う中で、自分の考えや授業の振り返り等を、自分の言葉で表現できる生徒が増えていることを確認できた。
- ・ N I T Sのオンライン研修を2回実施したが、全教員で学ぼうとする雰囲気があり、本校に必要な研修ができた。
- ・ 放課後学習（期末テスト週間の放課後、全校で教え合い学習を行った）や土曜授業の余裕時間を利用して、全校生徒で思考力問題等に取り組むことができた。
- ・ 生徒の実態把握のために、レディネス・アンケート（4月）、授業評価アンケート（7月と12月）を実施することで、4月から子ども達の変化が見取れて良かった。どの教科も肯定的な評価が増えている。
- ・ キャリア教育に取り組むということは子どもたちに自信をつけること、子どもたちの自己有用感を高めることが、大事な部分だと考え、総合的な学習の時間や行事等で達成感を持たせるよう取り組んだ。活動後の個々の達成感や内外からのボイスシャワー等により、子どもたちのあいさつや返事の声が大きくなったり、自信のある表情等が見られるようになった。この子どもたちの変容から、その成果を感じている。
- ・ キャリアノートを継続し活用する中で、子どもたちが自分自身の学びや活動を肯定的に捉え、身についた力を自覚することで、自己有用感を高める一助となっていると思われる。

### (2) 課題

- ・ 教科間連携については、少人数ならではの校内研を考えていく必要がある。本年度、ICTを活用した授業づくり等で行ったが、個々に学んだことの伝達講習もより多く取り入れていきたい。また、授業研のワークショップのあり方も少人数では多様な意見交換になりにくいので、ワークショップ以外の手法を考えていきたい。
- ・ ノート指導と予習・復習の工夫についての研修が少なかった。教科によっては家庭学習のサイクル化がうまくできているものもあるが、家庭学習のチェックができやすいという少人数の利点を生かしつつ、予習の必要性を感じさせる取り組みを進めていきたい。
- ・ 教師自身がキャリアの視点を意識し、すべての授業実践の中に「キャリアの視点」を明確に位置づけて実施すること。
- ・ 4月当初から比較すると自ら進んで物事に取り組もうとする生徒が増えてきたものの、依然として積極性には物足りなさを感じる。特に校外での活動では、その傾向が強まるため、更なる教師側からの肯定的な働きかけや自尊感情が高まるような活動を設定し、自信をもって様々な活動へ積極的に取り組めるようにしていく必要がある。

来年度、3名の卒業生を送り出した後、本校の歴史に幕を下ろす。3人それぞれが、「夢・志」をもって次のステージに進むために、たくましくしなやかに生きるための「知・徳・体」を身につけるために、これからもキャリア教育の充実に取り組んでいきたい。